

vol. 46

# The News Letter

2022 WINTER

一般社団法人 日本歯科審美学会

General Incorporated Association Japan Academy of Esthetic Dentistry

## 巻 頭 言

### 美しく健康で持続可能な口腔の維持

一般社団法人日本歯科審美学会 副理事長 酒井麻里



2021年から副理事長の要職を担わせて頂いておりますが、会務に携わるようになった頃はすでに新型コロナウイルス感染症流行の渦中でした。感染拡大防止のために、身体的距離の確保、マスクの着用、3密(密集、密接、密閉)の回避のなど、新しい生活様式が提唱され、多くの人が集まる学会の学術大会やセミナー等は中止や延期、リモート開催を行う

など大きな変化がありました。幸いにも本学会では、2021年の第32回学術大会(東京)開催に引き続き、2022年10月15、16日には新海航一大会長のもと、対面での第33回学術大会(新潟)を開催できました。

世の中はウィズコロナ時代を迎え、口腔健康管理の大切さがより重要視されるようになりました。近年の疫学調査でもCOVID-19に歯周病が関与する事が報告されています。「経済財政運営と改革の基本方針2022(骨太の方針2022)」でも、経済停滞を防ぎつつ感染防止を見据え、「感染防止政策としての口腔健康管理」という政策提言が打ち出されました。全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科検診(いわゆる国民皆歯科健診)の検討など、歯科医療従事者としての役割はウィズコロナ時代においてさらに大きくなってきています。

本学会では、歯科審美学を「顎口腔系における形態美・色彩美・機能美の調和を図り、人々の幸福に貢献する歯科医療のための教育および学習に関する学問体系である」と定義しています。「歯科審美」とは健康な口腔の上に成り立つものであり、歯列矯正や歯周治療、歯冠補綴、修復などの治療から、口腔機能を獲得し維持することにより、「美味しく食べ、楽しく話し、いつも笑顔」のある健康な口腔を実現し支えていくことであると考えます。この健康な口腔の維持が人々の幸福につながることは言うまでもありません。本学会は「歯科審美」を入り口とし、健康な口腔の維持の大切さを伝える機会を逃さないよう、国民へ口腔の健康管理等の予防対策も普及させたいと考えています。今後とも会員の皆様のご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

## 第34回日本歯科審美学会学術大会のご案内

### 明日へとつなげる歯科審美

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻  
顎顔面機能再建学講座 歯科保存学分野 大会長 西谷佳浩



この度「明日へとつなげる歯科審美」をメインテーマとして、日本歯科審美学会第34回学術大会を開催させていただくことになりました。

本学術大会は2023年12月9日（土）・10日（日）に鹿児島県鹿児島市与次郎二丁目にある川商ホール（旧・鹿児島市民文化ホール）で開催いたします。新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、教室員一同

皆様を鹿児島にお迎えできますことを大変楽しみにしております。

鹿児島での日本歯科審美学会学術大会の開催は、1994年に豊田静夫大会長のもとで開催された第3回アジア歯科審美学会（AAAD）/第5回日本歯科審美学会（JAED）大会併催以来の29年振りとなり、会場となる川商ホールは対岸に鹿児島のシンボルでもある桜島が望める錦江湾に面した景色の良い会場で、鹿児島県の中でも最大規模の会場です。学会の他、コンサートや演劇、発表会等様々なイベントに利用され、鹿児島中央駅や天文館からバスも出ています。

Minimal Intervention Dentistryの概念の普及、接着性を担保しつつも操作性が簡素化された接着性材料やユニバーサルシェードの充填材料、新規漂白剤などの歯科材料の開発、口腔内スキャナー・CAD/CAMなどのDigital Dentistryの発展と国民の審美歯科治療に対する関心・ニーズの高まりによって、歯科審美学は進歩し、また今後も益々の発展を遂げることは想像に難くありません。

学術大会のテーマである『明日へとつなげる歯科審美』には、この高度に発展してきた歯科審美の最新の知見に触れていただき、明日への研究や診療へと生かし、また、今後も変容していく歯科審美に対する需要を満たし、それを超える発展のための一助となればという思いを込めています。

本学術大会では、スペシャルセッションとして「審美歯科のQ&A『どうするシリーズ』（案）」を企画しました。日常の歯科審美治療を行う上で生じる疑問について、修復、補綴、矯正、歯科技工、歯科衛生、それぞれの専門家を迎えて解説していただきます。まさに明日への診療へ生かしていただきたい、そんな思いで

企画しております。

また特別講演として、明海大学名誉教授の片山 直先生に色に関するご講演をいただきます。これまでの知識を振り返るとともに、これからの診療や研究につながる講演になると思います。

一年以上先での開催となるため、新型コロナウイルスの感染拡大状況もまだまだ見通しは立ちませんが、前述のように会場は県下最大級の広さを誇り、メイン会場である第2ホールでも十分な座席数があることから、座席間隔をしっかりと確保し、可能な限り感染対策を講じつつ、準備を進めます。懇親会についても、同様に感染対策に留意して手配を進めておりますので、ご参加をご検討いただければ幸いです。

大会開催地の鹿児島は、世界有数の活火山である桜島をはじめ、指宿の砂蒸し風呂、霧島温泉、屋久島や奄美大島等、豊かな自然に囲まれています。特に桜島は市街地から約4キロメートルに位置し、市街地からは24時間運航している桜島フェリーを使うと約15分で渡ることが出来ます。さらには幕末・明治時代を中心とした歴史的名所など見どころが多数あります。さらに鹿児島は黒毛和牛、豚、鶏の飼養数、鰻の養殖数、サツマイモ収穫量などが全国一位などの農業が盛んで、周囲を海に囲まれ豊富な新鮮な魚介も多く、学会へお越しになられた際には、ぜひ鹿児島のグルメもお楽しみいただければと思います。大会ポスターの中心にある薩摩切子は、薩摩焼、薩摩錫器等の鹿児島の伝統工芸品の一つであり、鹿児島を代表する観光名所島津家別邸「仙巖園」等でも見ることができます。また、背景に用いられているのは奄美大島伝統工芸品である大島紬の龍郷柄を用いています。

本大会は鹿児島国体開催等の影響により、12月の開催と例年よりやや遅い開催となりますが、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面再建学講座歯科保存学分野の教室員および関係者一同、皆様を鹿児島にてお迎えできますことを大変楽しみにしております。



大会会場の川商ホール

## 学術大会報告

### 第33回学術大会の開催報告

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第2講座 大会長 新海航一

第33回学術大会が10月15・16日の2日間にわたり、新潟市のりゅーとびあ新潟市民芸術文化会館において開催されました。7月から始まったオミクロン株のBA.5による第7波は9月に入り減少傾向に転じて増加傾向はみられないことと、医療従事者や高齢者を対象とした4回目のワクチン接種が進んでいることから本大会は現地開催といたしました。10月の第2週に入り第7波はかなり落ち着いたとはいえ、新規陽性者数は下げ止まりをみせていたことから参加者が少ないのではないかと危惧しておりました。しかしながら、天候にも恵まれ、おかげさまで448名(事前参加登録：325名、当日参加登録：123名)という予想以上の大勢の方々にご参加いただきました。大会運営に関しましては、ご後援をいただきました一般社団法人新潟県歯科医師会様、ご協賛をいただきました数多くの企業の皆様、そして運営事務局として絶大なるご支援をいただきました株式会社シンセンメディカルコミュニケーション様に衷心より感謝の意を表したいと思います。

りゅーとびあは、5階建ての建造物でコンサートホール(1,500席)、劇場(700席)および能楽堂をもつ芸術文化のための会館であり、本大会の第1会場として使用したコンサートホールならびに第2会場として使用した劇場は、ともに2階席と3階席をもち、天井は見上げるほど広い空間を有していました。この広い空間は、感染防止に役に立ったと思います。会場内では常時マスク着用とソーシャルディスタンスの確保など十分な感染防止対策をとらせていただきました。参加者の皆様からも感染拡大防止のために真摯な態度でご協力をいただきましたことに、この場をお借りして御礼申し上げます次第です。

さて、本学術大会のメインテーマは「形態・色彩・機能、三位



理事長講演 大槻昌幸先生



日本歯科医学会招待講演  
川口陽子先生

一体の歯科審美」とさせていただき、審美修復に不可欠な要素として歯の形態と色調の他に、歯の機能にもフォーカスをあてた内容を企画いたしました。

一日目は、開会式の後、10：00から第1会場でアドバンスセミナーが、第2会場で一般口演7演題の発表が行われました。アドバンスセミナーは「包括的審美歯科治療の最前線」というテーマで行田克則先生と貞光謙一郎先生からご講演をいただきました。ご両名のご講演から審美補綴が長期的な機能を発揮できるキーポイントについて重要な示唆をいただくことができました。昼食をはさみ、第1会場では13：10からシンポジウム1が開催され、歯科保存分野から「長期的耐久性を考慮したダイレクトレストレーション」をテーマに、若手会員でご活躍中の田代浩史先生、菅原佳広先生、ならびに須崎 明先生からご講演をいただき、MIコンセプトと接着に立脚したダイレクトレストレーションの適応症の拡がりや安定した予後を実感しました。16：00からは、特別講演として池山和幸先生から「人生100年時代、粧うことで自分らしく健康に」というテーマで、高齢者の心身機能・生活機能の向上やオーラルフレイル予防にもつながる「化粧療法」についてわかりやすくご講演をいただきました。そして17：10から日本歯科医学会招待講演として日本歯科医学会副会長の川口陽子先生が、「縦糸づくりと横糸づくりによる歯科界の発展を目指して」という演題で、各分科会がもつ専門領域の研究・臨床・教育の縦糸を日本歯科医学会が中心的役割を果たしながら横糸としてつなげて歯科界の発展を促していくという主旨の構想についてご講演されました。また、第2会場では13：10からシンポジウム2が開催されました。歯科補綴分野から「咀嚼機能と耐久性を重視した審美的補綴治療」をテーマに、新進気鋭で将来有望な3名の先生方、三浦賞子先生、野本俊太郎先生、ならびに峯 篤史先生からご講演をいただき、聴講された先生方は、ジルコニア、ニケイ酸リチウムおよびハイブリッドレジン



シンポジウム1でご講演された先生方

用いた補綴装置の予後について現状を理解できたと思います。

一日目の夜は、しばらく開催が中止されていた会員懇親会を「会員交流会」という名目で規模を縮小して久しぶりに開催いたしました。75名の参加者が、感染防止のためにテーブルの指定席着座形式で、新潟グランドホテルのコース料理と新潟の地酒を楽しみました。1時間という短い時間でしたが食事を楽しんだ後、マスク会話で近況を語り合いました。

二日目が始まり、第1会場では、9：30から理事長講演で「三位一体の審美歯科治療」と題して大槻昌幸先生がご講演され、本学術大会のメインテーマにちなんだ演題で本学会の進むべき方向性を示されました。10：00からシンポジウム3が開催され、歯科矯正分野から「中高年者の歯周-矯正治療」というテーマで、岡下慎太郎先生と井筒大輔先生からご講演をいただき、中高年者の包括的歯科治療における矯正歯科治療の応用について症例を通じて解説されました。会務報告会・表彰式の後、ランチタイムをはさんで13：40から歯科衛生士セッションとして「口腔の審美・機能のメンテナンスにおけるチーム医療」をテーマに、金子潤先生と石野由美子先生がご講演され、ホワイトニング後のメンテナンスやMFTにおける歯科衛生士の果たす役割について解説されました。次に15：50から教育講演1で佐藤琢也先生が歯科用マイクロスコープを用いた支台歯形成法について詳細に解説されました。第2会場では、10：00から「口腔内スキャナー（IOS）を極める」というテーマで学術講演委員会企画講演が開催されました。演者の末瀬一彦先生はIOSの現状と活用ポイントを、吉久保典子先生は歯科衛生士が患者さんとのコミュニケーションツールとしてIOSを活用する方法を解説されました。12：40からのランチョンセミナーは多くの参加者が集まり、高見澤俊樹先生が、歯の漂白効果の高いDual Whiteningについて詳細に解説されました。次に13：40から歯科技工士セッションとして「審美的歯科補綴治療を成功させるための情報伝



シンポジウム2でご講演された先生方

達」をテーマに、黒田俊樹先生と小原信二先生が、メタルフリー補綴装置の製作にあたってチェアサイドとラボサイドの的確な情報共有について各々の立場からご講演されました。最後に15:50から教育講演2で先田寛志先生が「救歯臨床(保存困難な歯を抜かずに審美的に治療する)」について熱く講演されました。

二日間にわたり51演題のポスターが掲示され、一日目の15:20から30分間という短い時間でポスター討論が行われました。ポスター会場はスタジオAという大会議室を利用しましたが、他の会場と比較して空間が狭く密は避けられない状況でしたが、マスク着用で以前のように活発な質疑応答が展開されていました。また、コンサートホールホワイエでは商社・書籍展示が催され、22社の企業様のご参加により華やいだ雰囲気の中、参加された皆様は新しい器材や書籍を手にとられ、企業のかたのご説明を受けていました。以前見慣れていた光景に、ほっとされたかたが多かったのではないかと思います。

16:40からの閉会式では次期大会長の西谷佳浩先生からご挨拶と鹿児島のビデオメッセージをいただきました。次期大会は来年の12月9日・10日に鹿児島市にある川商ホールで開催される予定です。この頃にはCOVID-19が収束し、盛大な学術大会が開催されることを祈念しております。

現地に赴くことが叶わない会員の皆様がオンラインでご参加いただけるように、ライブ配信やオンデマンド配信を併用するいわゆるハイブリッド開催も検討いたしましたが、収支バランスがとれず大幅な赤字決算となる可能性があるため、やむなく現地開催のみとさせていただきます。この点は非常に残念でしたが、皆様のご理解をいただけますと幸いです。また、何かと不行き届きな点が多々ございましたこととお詫び申し上げますとともに、何とか無事に第33回学術大会が現地開催できましたことにスタッフ一同衷心より感謝申し上げます。



シンポジウム3でご講演された先生方



## セミナー報告

### 2022年度 第1回学術講演セミナー「ホワイトニングを極める」

学術講演統括委員会 委員長 新海航一

本年7月24日に2022年度 第1回学術講演セミナー「ホワイトニングを極める」がWeb開催（ライブ配信）されました。COVID-19の第7波が襲来していた時期における開催でした。今回のセミナーは東京都渋谷区にある株式会社メディカルネット様本社のスタジオにて13：00から撮影が開始され、事前登録者にライブ配信されました。

ご講演は、西川昌弘先生（ライオン歯科材株式会社）、友田篤臣先生（愛知学院大学歯学部保存修復学講座）、茨木浩子先生（一般財団法人サンスター財団）、ならびに真鍋厚史先生（昭和大学歯学部歯科保存学講座美容歯科学部門）の4名の先生方を講師に迎え、メディカルネット様のご支援のもとで開催されました。まず、本学会理事長の大槻昌幸先生がご挨拶された後、歯科医師学術講演委員会副委員長の佐藤洋平先生から企画趣旨が説明されました。

前半の2演題は、歯科技工士・歯科衛生士学術講演委員会委員の小森洋平先生が座長を務め、西川先生が「セルフケア製品の製品設計と期待効果」というタイトルで、次に友田先生が「復習・失活歯漂白」というタイトルでご講演されました。西川先生は、歯ブラシと歯磨剤の製品設計と期待される効果について研究データ・臨床知見をもとにわかりやすくご解説されました。友田先生は、失活歯の漂白法として古くから行われているウォーキングブリーチのアップデートされた術式と漂白後の修復法について詳細にご解説されました。後半の2演題は、歯科技工士・歯科衛生士学術講演委員会委員の竹谷沙織先生が座長を務め、茨木浩子先生が「ホワイトニングを活用した予防戦略オーラルケアの重要性」というタイトルで、最後に真鍋厚史先生が「審美治療をする際の歯科関係者の倫理観（特にホワイトニングについて）」というタイトルでご講演されました。茨木先生は、長期的なオーラルケアにホワイトニングを活かすために、効果的なホワイトニングを行うための基礎知識、カウンセリング、メンテナンスおよびセルフケア指導についてわかりやすくかつ詳細にご解説されました。真鍋先生は、倫理委員会委員長立場から2017年に消費者庁取引対策課から出された「美容医療契約の特定継続的役務提供へ

の追加について」という注意喚起について詳しくご解説されました。いずれのご講演も受講者にとって非常に有益であったと思います。

ご講演を一括して質疑応答時間が設けられ、チャットで送られた質問に対して講師の各先生から丁寧なご回答をいただきました。歯科医師学術講演委員会委員長の石川明子先生が閉会の辞を述べられ、本セミナーは無事に終了しました。

事前申込者数は385名、当日参加者数は341名、受講登録者は285名でした。受講後のアンケートに対して、303名の方からご回答をいただきました。その結果を要約しますと、演者数4名、講演時間20-45分は「ちょうどよい」80%以上、講演内容は「理解した」と「概ね理解した」合わせて90%以上でした。また、本セミナーを知った機会は「会員メール」84.4%、参加した理由は「興味あるテーマ」59.2%、「認定医申請・更新資格取得」46.3%、今後のWebセミナー（オンデマンド配信した場合）の希望公開期間は「1ヶ月」39.9%、「2週間」33.1%、「1週間」21.5%でした。さらに数多くのご感想も頂戴いたしました。アンケートへのご協力に感謝いたします。今後の参考にさせていただきますと思います。

学術講演委員会の今後の方針といたしましては、しばらくはWith Coronaが続くと思いますので、無料のWebセミナーをライブ配信で企画していく所存です。今後ともセミナーへのご参加をよろしくお願い申し上げます。



Webセミナーのスタジオ撮影にご参加いただいた先生方

## セミナー報告

### 第53回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験の御報告

ホワイトニングコーディネーター委員会 柵木寿男



新型コロナウイルス感染症は第○波という、あたかも大海の波のように寄せては返すような流行を繰り返しており、本学会の活動も多大な影響を被っていることは否めません。残念ながら、従来から実施しておりました集合対面型のホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験は、2020年1月の福岡にての第50回開催から途切れておりました。しかし、協議を重ねて感染対策の徹底化などを施し、2021年3月にオンデマンド講習会、2022年1月には第52回オンライン講習会・集合対面型認定試験、と段階的に運営を再開しております。

そして、この度第53回のホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験を実施いたしました。方法としましては、前回同様に事前の2022年5月16日～30日に配信されたオンライン講習「歯のホワイトニング基礎編(下田哲子先生)」、「歯のホワイトニング臨床編(柵木)」、「ホワイトニングにおけるカウンセリングとケア(坂本奈津季先生)」、「こんな時どう答える?患者の質問に対して(須崎 明先生)」の受講を予め行っていただきました。その上で、受験申請をされた方を対象として、6月19日に集合対面型の試験を東京2会場、大阪1会場で実施いたしました。



第53回東京会場

当日は、感染対策の徹底実施下で直前講習や質疑応答を対面で行うことができました。知識の再確認、臨床上の疑問点の解決等、全参加者がマスク越しではありましたが活発な質疑応答が行われました。受験者である歯科衛生士の方々からの疑問点等は、私共委員としても重要であり、相互に大変有益であったといえます。そして、受験者が一同に会する様子は、本来の形式を取り戻したようで感慨深いものがありました。厳正なる判定会議の結果、新たに480名のホワイトニングコーディネーターが誕生したことは個々の受験者のみならず、本学会にとりましても喜ばしい限りです。合格者の方々は、歯のホワイトニングの担い手として、患者さんに寄り添う戦力としても活躍されていくことが期待できます。

今回の第54回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験は、今回を踏襲する形式で、2022年10月11日～24日に配信のオンライン講習の事前受講、そして集合対面型試験を、東京2会場、大阪1会場で11月6日に開催予定しております。既に10月初旬の時点で450名の定員に対して満員御礼となりましたが、今後の予定に関しましては、学会ホームページ <https://www.jdshinbi.net/academic/whitening/> にて随時最新情報が発信されてまいりますので、どうぞ留意いただきたいと思います。受験者の方には、必ずアンケートをお書きいただいております。その結果を踏まえ、委員会でも講習会・認定試験のブラッシュアップを行ってまいりますので、今後どうぞ宜しくお願いいたします。



第53回大阪会場

## 海外学会参加報告

### IFED2022参加報告

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 田上直美

日本歯科審美学会が加盟しているInternational Federation of Esthetic Dentistry (IFED) の第12回学術大会が、コロナ禍による1年間の延期を経て、2022年10月27～29日にアラブ首長国連邦の首都であるアブダビにて開催され、中村隆志理事と田上が参加いたしました。今回は役員任期満了期で、大会前日に開催された理事会(中村理事参加)及び総会(中村理事、田上参加)にて、次期役員が決定しました。次期の会長としてDavid Garber先生が選出され、中村理事も次期役員として再選されました。役員や国代表による討論後、新旧役員による懇親会が催され、中村理事が出席されました(写真1)。

27日からの学術大会は、受付を含む全てがペーパーレスに様変わりしており(写真2)、携帯にインストールしたIFEDアプリ内の登録証とPCR陰性結果を呈示しないと中に入れないシステムでした。特に、PCR結果はいずれの建物でも呈示を要求され、国全体で厳重な感染対策が施されていることを実感しました。このような状況下のため、海外からの参加者は少なく、特に東アジア人は殆ど居なかったこともあって、国際大会としては少し寂しい雰囲気もありましたが、そのお陰でアットホームな雰囲気に参加出来ました。講演(写真3)やハンズオンセミナー(写真4)など学びの内容は多岐に渡り、企業展示(写真5)も盛況でした。講演はフルマウス症例のストラテジー関連が多く、特にインプラントや矯正が絡んだ治療が多く呈示されました。顎顔面全体に対する医科を交えたチームアプローチも紹介され、そのピフオーアフターは圧巻でした。中近東での学会には初めて参加しまし



写真1 学術大会前日の役員懇親会にて

たが、参加者の服装も様々で国際色豊かな大会でした。特にサウジアラビアの女性がお一人で熱心に聴講されていたのが印象的で、例えばヒジャブで見えなくても口元の美しさは大切なのだと感銘した次第です。

第13回学術大会は2024年にイスタンブール(トルコ)にて開催されます。今度こそ感染症とは無縁の大会となる筈です。現地で皆様にお目にかかることを楽しみにしています。



写真2 紙1枚、ペン1本無い受付



写真3 講演風景



写真4 ハンズオンワークショップ風景 (写真中央はAAAD会長のVijay先生)



写真5 企業展示の様様

## 海外学会参加報告 (WEB開催)

### AAAD2021国際ショーケースコンペティション 若林理事受賞報告

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 田上直美

2021年11月15～22日、日本歯科審美学会が組織加盟しているAsian Academy of Aesthetic Dentistry (AAAD) の第16回学術大会がオンラインにて開催されました。日本歯科審美学会からは大槻昌幸理事長が招待講演を、若林一道常任理事が国際ショーケース講演をお務めくださいましたのは記憶に新しいところです。

国際ショーケース講演は、実はコンペティション形式となっており、大会開催後に主催者側にて厳正な審査が行われ、選考の結果、若林理事のご講演が第2位に選ばれました。

若林理事のご講演は、インプラントを用いた審美補綴を含むケースシリーズで、繊細な症例に感銘を受けた先生も多いと思います。若林理事が通常使用されている診療ユニットからの講演スタイルも斬新で、大変興味深く拝聴した次第です。

表彰式は、2022年10月16日の夜、第33回日本歯科審美学会学術大会終了後の新潟にて執り行われました。大槻理事長、新海航一大会長などがご列席なさる中、第16回AAAD学術大会の大会長Kim Myunjun先生の命を受けたKorean Academy of Esthetic Dentistry (KAED) 理事長より美しい盾が授与されました。

AAAD第17回学術大会は2023年にコロンボ(スリランカ)にて開催される予定です。コンペティションの有無は未定ですが、アジアの熱気を感じる良い機会ですので、第2の若林理事を目指して、是非多くの先生方にご参加頂きたいと思います。



## 学会功労賞受賞者のご紹介

### 日本歯科審美学会功労賞を受賞して

ナグモ歯科クワバラクリニック 桑原 栄

快晴の中、令和4年10月15～16日に日本歯科審美学会第33回学術大会がりゅーとびあ新潟市民芸術文化会館で開催されました。16日の会務報告会、表彰式の中で日本歯科大学の奈良陽一郎先生と共に学会功労賞を受賞し、大変光栄に存じます。ご推薦頂きました先生方、大槻理事長はじめ選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

現在、顧問として参加しておりますが、1989年の第2回研究会から参加し、当時の『審美歯科』という初めて聞くフレーズに新鮮さを感じた記憶があります。

当時、大阪大学教授の丸山剛郎先生のご指導を受け、元副会長のナグモ歯科赤坂クリニックの佐藤孝先生と一緒にスタッフと共にフィレンツェでの国際歯科審美学会、ロサンゼルスでのアメリカ歯科審美学会、ソウルでのアジア歯科審美学会への参加など、一開業医が大学の先生方と共に参加するなど、とても充実した楽しい思い出があります。学会活動では佐藤孝先生が企画されたホワイニングトコーディネーター委員会と当時セミナー委員会委員長を拝命し、大学からは若かりし大槻理事長など多くの先生方の応援にて一緒に臨床セミナーを企画運営し、歯科臨床で高名な故筒井昌秀先生、山崎長郎先生、内藤正裕先生などにご講演いただき多くの参加者により大好評を得ました。臨床での審美歯科のイメージの確立に貢献できたと自負しております。

臨床における審美歯科治療は各々の歯科治療でのゴールであり、患者さんの生活、人生にかかわり、口元からくる若さ、美しさに大いに貢献している専門的医療でもあり、最近の『セルフホワイトニング』という安直な営業に塗れたエステとの大きな違いを世の中に、本会が『PRIDE』を持って社会にアピールし、発展していただきたいと思っております。





## 学会功労賞受賞者のご紹介

### 学会功労賞を賜って

日本歯科大学生命歯学部 接着歯科学講座 奈良陽一郎



本会の新海航一・常任理事が大会長を担われた第33回学術大会2日目の会務報告会・表彰式において、光栄にも学会功労賞を賜りました。

表彰制度施行細則の選考基準を紐解いてみますと、学会功労賞については「本会における各種活動により本会の発展に功績があったと認められる者」とあります。したがって、この度の表彰は周知のとおり私個人のみでは不適應であり、会員と

して過ごした三十余年間の時の流れの中で、私を導き支えてくださった多くの方々との共同受賞に他ありません。

委員会活動の初体験は、同じ学舎の師であり先輩でもある加藤喜郎先生(名誉会員)が声掛けしてくださった編集委員であり、その後、セミナー委員・会則検討委員・表彰委員・学術関連部門長等を経験させていただきました。これらの日々は、正に岩久正明、三浦廣行、佐藤博信、松村英雄、長岡英一先生はじめ、有田博一、宮崎隆、末瀬一彦、武井典子、桑原栄、佐藤孝、福島正義先生が傍に居てくださったことで、多くを学ぶことができました。また、田上順次先生が2期目の会長を担われた折には財務を仰せつかり、桑田正博、新谷英章、平井敏博、寺田善博監事(名誉会員)による的確なご指導を受けながら3期6年の間、本会のお財布を預りました。同時にこの期間は、久光久、佐藤亨、千田彰会長に寄り添っていただいたことで、どうかお役目を果たすことが叶ったと申せましょう。併せて、宮内修平第10代会長・初代理事長からは学会の取り纏め役としてのご指南を頂戴し、2017年から2年間の任期にて理事長を拝命しました。この重責は、歯科医師領域から藤澤政紀、日野年澄先生、歯科技工士領域から齊木好太郎先生、歯科衛生士領域から山羽京子先生に副理事長として参画いただき、さらに本会が誇る切れ者・大槻昌幸先生(現理事長)には総務を担っていただいたことで、どうか務めあげることができました。加えて、越智守生、中村隆志、若林一道、脇智典、石川功和、中村暎子、山本一世、吉山昌宏、富士谷盛興、宮崎真至、真鍋厚史、星野睦代、石川明子、橋場千織、大森かをる、山口麻衣、椿知之先生にはどれ程、お世話になったことでしょうか。

私が巡り逢えた方々含め、日本歯科審美学会は素晴らしい人材に恵まれた学際組織です。これからも、患者国民・会員の求めと期待に応える学会として発展されますよう期待します。本当に、ありがとうございました。

## 優秀発表賞受賞者のご紹介

### デンツプライシロナ賞を受賞して

大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 糸田理沙



日本歯科審美学会第32回学術大会においてデンツプライシロナ賞に選出頂きましたことを大変嬉しく、光栄に存じます。本発表を評価し、選考してくださいました先生方に感謝申し上げます。

選考して頂いた発表は「笑顔の強度が顔における注視停留時間に及ぼす影響」です。本発表以前の先行研究にて、真顔、微笑顔および笑顔の顔画像から受ける印象を調査しました。その結果、歯の露出のない真顔や微笑顔と比較して、歯の露出した笑顔においてポジティブな印象が得られることを報告しました。しかし、顔画像のどの部位を見てポジティブな印象が得られたのかは明らかではありませんでした。そこで本研究では、強度の異なる笑顔のどこを見てポジティブな印象を得たのかをアイトラッカーを用いて明らかにすることとしました。結果として、男性および女性の顔画像いずれにおいても、目および鼻での笑顔の強度による注視停留時間に大きな変化は認められませんでした。一方、口において歯の露出のある笑顔で注視停留時間が有意に長くなりました。これらのことから、歯の露出のある笑顔の口元からポジティブな印象を受けることが明らかとなりました。

口元は、顔の中でも動きが大きく、言葉、表情、感情を伝えるうえで大きな役割を担っています。また、私たちが日々向き合う歯も口元の大切な一部です。患者様の口腔の健康保持を努めることが歯科医師の仕事ですが、本研究を通して、顔の印象も担う仕事であるということを痛感しました。今後も研究活動や学会活動を通して、審美歯科に関連する知見を深め、患者様の口腔機能回復だけでなく、審美的満足にも応えられるよう日々精進していく所存です。

末筆ですが、本研究に関わってくださいました全ての方に心より感謝申し上げます。

## 優秀発表賞受賞者のご紹介

### スタートアップ発表賞を受賞して

大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座(大学院3年生) 篠崎百合絵



この度、日本歯科審美学会第32回学術大会で発表いたしました「頭位の違いが女性におけるスマイル時の上顎前歯部の露出度に及ぼす影響」に対して、スタートアップ発表賞という大変名誉な賞を賜り、誠に光栄に思います。本発表を高く評価してくださいました先生方、並びに学会関係者の皆様がこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

本研究は、審美的な歯科治療を行う上で、一貫した頭位で審美性の分析・評価する必要があるのではないだろうか、という疑問から始まりました。今回、フェイススキャナーと口腔内スキャナーによって得られた顔貌と歯列の3次元データを用いてフランクフルト平面とCamper平面を水平基準面とした頭位および自然頭位における女性のスマイル時の上顎前歯部の露出度を比較しました。その結果、頭位の違いによって上顎前歯部の露出度は異なることが明らかとなりました。これは頭位によって歯の見え方が異なることを意味し、上顎前歯部の審美的な歯科治療の分析・評価する際には、頭位を規定する必要性があると考えられます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、新潟県で開催された日本歯科審美学会第33回学術大会が私にとって初めての現地参加となりました。Web開催とは異なり、多くの先生たちの素晴らしい知識、臨床技法を対面で享受することができ感銘を受けました。今後もより良好な歯科審美学を追求していくとともに、日常臨床に有益となる研究をできるよう精進したいと思います。

最後に、研究に参加していただいた被験者の皆様、研究を指導して頂いた柏木宏介教授および鳥井克典講師をはじめとする大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座の皆様にご感謝申し上げます。



## 委員会報告

### 国内渉外委員会

例年と同様に日本歯科審美学会の社会連携事業の1つとして歯科審美学に関する出張講義を行っています。10月11日現在で44校の養成校(歯科衛生士40校、歯科技工士4校)から講義の希望がありました。昨年と同じ講師の派遣を希望される養成校が多いようです。コロナ禍が続く中、オンラインでの講義希望も9校ありました。

講義の申し込み締切りは10月末であり、実施校はもう少し増えると思います。講義は2023年2月までの期間に実施されます。講師の承諾をいただいた代議員の皆様には厚く御礼申し上げます。(委員長 中村隆志)

### 資格承認統括委員会

8月25日(木)に第52期認定医・第23期認定士審査(症例提示及び口頭試問試験)をAP東京八重洲11階Nルームにて4回ぶりに対面形式で実施しました。その結果受験者全員が(認定医4名、認定士1名)の合格が承認されました。今後の認定医審査のスケジュールとして、第53期認定医の申請期間は10月31日迄、書類審査は12月2日、症例提示および口頭試問は2023年2月頃を予定しております。なお、第54期認定医・第25期認定士の申請、書類審査および口頭試問のスケジュールは例年通り(2023年4月~8月頃)を予定しております。今回の申請に間に合わなかった有資格者の皆様は是非、次回の申請をご検討ください。

今回、認定医制度規則、認定医制度施行細則について、次の通りの改正に伴い、規定を整備することとしました。

- ・認定医制度規則 第15条について、更新時(満63歳以上)に終身認定医申請書(様式8)を提出することで終身認定医を認めることとしました。

- ・認定医制度施行細則について、歯科審美に関連する学会として日本口腔筋機能療法(MFT)学会を追加することとしました。

また、認定士制度規則、認定士制度施行細則の改定についても、次の通りの改正に伴い、規定を整備することとしました。

- ・認定士制度規則 第16条について、更新時(満63歳以上)に終身認定士申請書(様式10)を提出することで終身認定士を認めることとしました。

- ・認定士制度施行細則 第2条、第7条について、第2条(2)、第7条(2)の規定文の整備は、『日本歯科審美学会および歯科審美に関連する…』としました。

- ・認定士制度施行細則について、歯科審美に関連する学会として日本口腔筋機能療法(MFT)学会を追加することとしました。

以上を認定医制度規則・施行細則、認定士制度規則・施行細則  
をご確認ください。 (委員長 越智守生)

### 表彰選考委員会

第33回日本歯科審美学会学術大会（新潟）において、代議員  
の投票により、以下の2題が受賞されました。おめでとうございます。

#### 〈デンツプライシロナ賞〉

演題名：2級コンポジットレジン修復の隔壁法に関する考察

発表者：新海航一（日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第2講座）

#### 〈スタートアップ発表賞〉

演題名：歯科材料を用いたユニバーサルシェードコンポジットレ  
ジンのシェードマッチング評価

発表者：山口耀平（日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科硬組  
織機能治療学）

(委員長 橋場千織)

### 広報委員会

広報委員会の大きな取り組みとして、ホームページのアップ  
デート、ニュースレターの配信を行っており、会員の方々、学  
会にご賛助いただいている企業、そして国民の皆様へ、有益な情  
報をお送りできるように活動をしています。

ご覧なられた方もいらっしゃるかと思いますが、今回、はじめ  
での試みとして、ホームページのトップページを学会の活動に合  
わせて、変化させるようにいたしました。第33回の学術大会前  
には開催案内への誘導、終了後には、優秀発表賞の表彰式の写  
真を大きく掲載するなど、日本歯科審美学会として、特色のある  
ホームページとなるように努めています。ニュースレターを含  
め、多くの情報がデジタル化しておりますので、お時間のあると  
きは、日本歯科審美学会のホームページにアクセスしていただき  
ますよう、よろしくお願いいたします。

(委員長 若林一道)

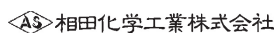
### 学会主導型研究報告

「口元の審美意識向上が健康寿命延伸に関与する」という仮説  
のもとで立ち上げられた本研究課題も、早いもので4年目を迎え  
ております。とはいいながら、コロナ禍真ただ中に日本歯科医  
学会のプロジェクト研究に採択されてしまったため、当初の2年  
間は十分な調査ができませんでした。一昨年の学術大会では保坂

先生が研究の概要と調査システムの紹介でポスター発表し、昨年ようやく調査結果の一部を報告いたしました。その時の患者数は54名でした。昨年12月にオンラインで学術講演セミナーを兼ねた学会主導型研究報告会では108名に増員した調査結果を報告し、今年の第33回学術大会では178名の分析結果を報告しました。しかしながら、いずれも横断研究としての解析結果です。今後は前向きコホート調査としてさらに発展させていく予定です。つきましては、調査協力者をさらにお願ひしたいと思いますので、お声がけさせていただきました際には、宜しくお願ひいたします。

(前理事長 藤澤政紀)

## 賛助会員一覧



相田化学工業株式会社  
〒183-0026 東京都府中市南町6-31-2  
Tel: 042-366-1201  
<http://www.aida-j.jp>



石福金属興業株式会社  
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-20-7  
Tel: 03-3252-8471  
<http://www.ishifuku.co.jp>

### 医歯薬出版株式会社

医歯薬出版株式会社  
〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10  
Tel: 03-5395-7630  
<http://www.ishiyaku.co.jp>



Ivoclar Vivadent株式会社  
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24  
Tel: 03-6801-1301  
[https://www.ivoclar.com/ja\\_jp](https://www.ivoclar.com/ja_jp)



ULTRADENT JAPAN株式会社  
〒151-0061 東京都渋谷区初台1-34-14  
初台TNビル3F  
Tel: 03-5365-1760  
<https://www.ultradent.jp/>



クインテッセンス出版株式会社  
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-6  
クイントハウスビル  
Tel: 03-5842-2270  
<https://www.quint-j.co.jp>



グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社  
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1  
赤坂インターシティAIR  
Tel: 03-4231-5108  
<http://glaxosmithkline.co.jp/gsk-chj/>



クラレノリタケデンタル株式会社  
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4  
常盤橋タワー  
Tel (フリーダイヤル) : 0120-330922  
<https://www.kuraraynoritake.jp>



サンメディカル株式会社  
〒524-0044 滋賀県守山市古高町571-2  
Tel: 077-582-9981  
<http://www.sunmedical.co.jp>



株式会社ジーシー  
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-14  
Tel (カスタマーサービスセンター・お客様窓口) :  
0120-416480  
<https://www.gcdental.co.jp/>



株式会社松風  
〒605-0983 京都市東山区福稲上高松町11  
Tel: 075-561-1112  
<http://www.shofu.co.jp/>



スリーエム ジャパン株式会社  
〒141-8684 東京都品川区北品川6-7-29  
Tel (コールセンター) : 0120-332329  
<http://www.3mcompany.jp/dental/>



デンツプライシロナ株式会社  
〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1  
住友不動産汐留浜離宮ビル5階  
Tel (フリーダイヤル) : 0120-789123  
<https://www.dentsplysirona.com>



株式会社東京技研  
〒158-0087 東京都世田谷区玉堤1-25-13  
Tel: 03-3703-5581  
<http://www.tokyogiken.com/>



株式会社トクヤマデンタル  
〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9  
イトーピア清洲橋通ビル7F  
Tel (フリーダイヤル) : 0120-54-1182  
<https://www.tokuyama-dental.co.jp>



ペントロン ジャパン株式会社  
〒140-0014 東京都品川区大井4-13-17-5F・6F  
Tel: 03-5746-0316  
<https://www.j-pentron.com/>



ホワイトエッセンス株式会社  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-12-18  
渋谷南東急ビル11F  
Tel: 03-6434-1330  
<https://www.whiteessence.co.jp/>



株式会社メディカルネット  
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14  
宝ビル 3階  
Tel: 03-5790-5263  
<https://www.dentwave.com/>



株式会社茂久田商会  
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4-7-5  
E-mail: [info@mokuda.co.jp](mailto:info@mokuda.co.jp)  
<http://www.mokuda.co.jp/>



株式会社モモセ歯科商会  
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町6-35  
Tel: 06-6773-3333  
<http://www.momose-dm.co.jp>



株式会社モリタ  
〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18  
Tel: 06-6380-2525  
<http://www.dental-plaza.com>



株式会社モリムラ  
〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10  
Tel: 03-5808-9350  
<http://www.morimura-jpn.co.jp/>



株式会社ヨシダ  
〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9  
Tel (コンタクトセンター) : 0120-178-148  
<http://www.yoshida-dental.co.jp>





JAPAN ACADEMY OF ESTHETIC DENTISTRY

発行人 / 大槻 昌幸

編集 / 一般社団法人日本歯科審美学会  
広報委員会

制作 / 三宝印刷株式会社

一般社団法人日本歯科審美学会

[www.jdshinbi.net/](http://www.jdshinbi.net/)